

太古の記憶が蘇る

町田堀遺跡

東九州自動車道の計画路線にある串良町細山田では、縄文時代・弥生時代・古墳時代の人々の生活の跡や、亡くなった豪族を埋葬した跡が発見され、平成26年2月まで発掘作業が続けられています。

なぜこの地に、墓が造られたのか。どのような人が埋葬されたのか。そもそも、この町田堀遺跡に眠る豪族達の集落はどこにあったのか。

興味の尽きない太古のロマン。秋の夜長、串良の地に眠る歴史を想像してはいかがでしょう。

【問い合わせ】町田堀遺跡発掘現場事務所

☎0994-6214750



▲ヒスイ製垂飾

縄文時代

縄文時代は、約1万3千年前に土器が作られ始めてから、約2千5百年前に稲作農耕が始まる弥生時代まで約1万年続きます。

町田堀遺跡では、約3千年前の縄文時代の遺構や遺物が発見されました。

埋設土器

埋設土器とは、鉢型の広口の土器を地中に埋めたものです。亡くなった人が骨だけになった段階で骨だけを入れて埋葬する再葬墓ではないかなどと考えられています。町田堀遺跡では4か所で見つけられました。

石斧集積遺構

石斧集積遺構とは、石斧を12本まとめて埋めたものです。なぜ、このように石斧をまとめて埋めたのかよく分かっていませんが、お祭りの意味合いがあったのではないかと考えられます。また、石斧はすべて扁平なもので、木を切るには適さないものです。おそらく土を掘る道具ではないかと考えられることから、狩猟・採集だけ

はなく、農耕に近い作業をしていたと考えられます。

ヒスイ製垂飾・小玉

ヒスイ製垂飾と小玉は、新潟県の糸魚川で産出するもので作られています。縄文時代のヒスイは県内でも数少ない出土ですが、すべて糸魚川のものと考えられます。当時から広域な交流・交易が行われていたことがうかがわれます。

竪穴住居跡

竪穴住居跡は、1軒だけ発見されています。3.6m×4mのほぼ円型をしています。住居の中からは、中岳式土器や石器が数多く発見されました。この時期の住居跡の発見は、珍しく貴重な資料です。



▲竪穴住居跡

Interview

埋蔵文化財調査センター 中村耕治氏

志布志湾岸一帯は、昔から古墳が多いことで有名ですが、近年発見された祓川や立小野堀、町田堀などの内陸部に位置している遺跡では、地下式横穴墓の群集が見つかっています。

両者の違いで分かっていることは、地下式横穴墓は規模が小さいこと、形態が多少異なることです。しかし、出土した鉄器などの副葬品は見劣りしません。

そのことから、これらの鉄器などの入手方法が謎となります。中央政権と繋がりがあったのか、または九州でも1・2を争った志布志湾岸一帯の権力者から分け与えられたのか…。

解明されていないことはたくさんありますが、発掘しなければ分かりません。未だ残る多くの課題を追求していきたいと考えています。



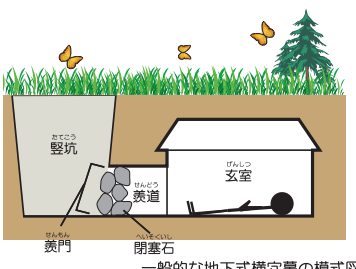
古墳時代

古墳時代(約1千5百年前)は、前方後円墳などの古墳が全国に造られた時代で、大和政権が成立していく時代です。県内でも唐仁古墳群(東串良町)・横瀬古墳(大崎町)・塚崎古墳群(肝付町)など多くの古墳が造られています。特に志布志湾沿岸部には、大型の前方後円墳や円墳などの古墳群が密集しています。

地下式横穴墓

南九州には、地下式横穴墓と呼ばれるこの地域特有の墓があります。地下式横穴墓

は、地表からたてに穴を掘り(竪坑)、その最下部から横方向に掘り進め、地下に空洞を造ります。この空洞(玄室)に遺体を安置し、入り口をふさいで竪坑は埋め戻します。玄室内には鉄でできた鍬や



一般的な地下式横穴墓の模式図

剣などを埋葬することもあります。

町田堀遺跡でも、これまでに地下式横穴墓50基が発見されています。人骨の残っている墓も6基発見されました。副葬品として、鉄鍬・鉄剣・槍なども出土しています。当時では鉄は大変貴重なもので、鉄製品を持つことは権力者だったことを裏付けるものです。また、鉄鍬の形態から5世紀代で横瀬古墳とほぼ同じ年代と考えられます。

町田堀遺跡で発掘された出土品



▲37号墓人骨

37号墓(地下式横穴墓)で出土した保存状態の良い人骨。壮年男子のようで、歯の残りも非常に良く、32本全部揃っています。



▲赤色顔料

「火」あるいは「血」の色に通じる古くより様々に使用されてきた赤色顔料。地下式横穴墓でも、顔や体、羨門などに塗られています。



▲鉄剣

40号墓に副葬されていた長さ78cmと長い鉄剣。鞘には、桜の木の皮が巻かれています。



▲大型異形鉄鍬

非常に大きく、形も特殊な鉄鍬。実用的なものではなく、儀式や祭祀、副葬用に作られたと考えられます。



▲埋設土器



▲石斧集積遺構